

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立中央小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 91人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国と比べて中央値は同じだが、上位層と下位層がやや多くなっている。

平均正答率（本校 71／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答数の分布状況は、全国と比べて文章の内容の中心を明確にする、他のものと比較して書くという趣旨では低くなっているが、文章全体を読み取るところは高くなっている。

平均正答率（本校 50／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞くこと】 ○相手や目的に応じ自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら、筋道を立てて話すことに課題がある。 1. 図書館への行き方の説明として適切なものを選択する。 (85.7/90.8)	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○相手や場面に応じて適切に敬語を使うことについて全国よりもできている。 7. 【話を聞いている様子に一部】のA, イに入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する。 (69.2/56.0)
【読むこと】 ○目的に応じて必要な情報を捉えることに課題がある。 3. 【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する。 (64.8/73.9)	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが、他の問題に比べて特に課題がある。 8エ. (かん理) (58.2/65.0)

国語 B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞くこと】 ○文の内容を的確におさえることに課題がある。 1三 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 (24.2/33.8) ○他と比べて、無答率が高い。	【読むこと】 ○読みながら自分の考えを明確にすることに課題がある。 3二 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。 (41.8/52.3) ○他と比べて、無答率が高い。
【書くこと】 ○自分の意見を考え出して書くことに課題がある。 2二 目的や意図に応じ、話の内容の中心を明確にして詳しく書く。 (8.8/13.5)	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	83.5	79.9		3.6
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	80.2	74.7	◇	5.5

○国語 A ・ ・ 調査問題の解答時間が十分であると感じている。しかし、後半の問題の無答率が高かったの
で、問題を考える時間が本当に十分だったか検証する必要がある。

○国語 B ・ ・ 調査問題の解答時間が十分であると感じているにもかかわらず、文の内容を的確に押さえら
れていない。
調査問題の解答時間が十分であると感じているにもかかわらず、自分の意見や考えを書けて
いない。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・中央値や平均正答率は全国とほぼ変わらないものの、グラフのピークが上位層と中位層の二つに分かれて現れている。

平均正答率（本校 65／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・正答数の分布において、上位のピークは全国より1ポイント高いところにあり、全体を引き上げている。しかし、その全体像はなだらかな山様のものではなく、下位層にこぶが見られる。

平均正答率（本校 51／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
【数と計算】 ○計算の能力・四則演算の技能は全国と比べても概ねよく理解できている。 1（3）針金1mの重さを求める式を選ぶ (72.5/65.3) 3 3桁の整数同士の大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く (84.6/76.4) 【量と測定】 ○概ね全国を上回っており、よく理解できている。 4（2）ウとエの二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ (56.0/50.1) 5（2）分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める。 (64.8/58.5)	【図形】 ○円周率の意味についての理解に課題がある。 7（1）円周率を求める式として正しいものを選ぶ (33.0/41.6) 【数量関係】 ○百分率を求めることに課題がある。 8 200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ (45.1/52.9)

算数B	特徴がみられた設問
【数量関係】 ○日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることに課題が見られる。 3（1）2つのメモが、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目しているのかを書く。 (17.6/20.7) 3（2）一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読みとることができることをまとめて文章に当てはまるものを選ぶ。 (15.4/23.9)	【数量関係】【図形】 ○数量や図形についての知識・理解は、概ねできている。 【図形】 ○日常生活の事象を図形の構成要素や性質を基に観察し、図形を判断したり、事柄が成り立つことを理論的に考察し、数学的に表現したりすることは概ねできている。 1（1）合同な三角形で敷き詰められた模様の中に条件に合う図形を見いだすことができる (75.8/71.8)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(27)算数の勉強は好きですか。	61.6	64.0		2.4
(28)算数の勉強は大切だと思いますか。	86.8	92.1	◇	5.3
(29)算数の授業の内容はよくわかりますか。	89.1	83.4	◇	5.7
(30)算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。	67.1	74.3	◇	7.2
(31)算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	74.8	78.4		3.6
(32)算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	55.0	64.4	◇	9.4
(33)算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	81.3	90.3	◇	9.0
(34)算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	75.9	78.5		2.6
(35)算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	75.9	80.4		4.5
(36)算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	83.5	85.8		2.3
(37)今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。 （「最後まで書こうと努力した」と答えた割合）	76.9	70.6	◇	6.3
(60)調査問題の解答時間は十分でしたか。 （算数 A） （「余った」「ちょうどよかった」と答えた割合）	86.8	80.3	◇	6.5
(61)調査問題の解答時間は十分でしたか。 （算数 B） （「余った」「ちょうどよかった」と答えた割合）	82.4	66.0	○	16.4

※ (27)～(36)は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に答えた割合

○「算数が好き」と回答した児童の割合は、昨年度と比較してほぼ横ばいであるが、全国平均との差は縮まってきている。(H29 年度 62.8 全国平均との差 -3.1)「できる」「わかる」を実感できる指導を今後も継続していくことが必要である。

○「授業の内容がよくわかる」と回答した児童の割合は経年比較して、大幅に向上し、全国平均よりも 5.7 ポイント上回っていることから、算数の授業改善が進んでいる成果であると考えられる。
(H28 年度 69.9 H29 年度 77.8)

○「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」ことには依然として肯定的に回答する児童の割合は低く、ほぼ半数に留まっている。演算練習や基礎基本の徹底に重点を置き、時間を使っていることが、意図せず具体物の操作や量感の育成などの算数的活動の時間を削いでいることも考えられる。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数や中央値は全国とほぼ同じであるが、正答数の分布は全国と比べると下位層と上位層にやや分かれる傾向にある。
- ・主として「知識」に関する問題は概ねできている一方で「活用」に関する問題に課題がみられる。
 平均正答率（本校 57／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）
 主として「知識」に関する問題（本校 80／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）
 主として「活用」に関する問題（本校 51／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問
○骨と骨のつなぎ目や堆積作用に関する科学的な言葉や概念は、概ね理解している。 1（3）腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く（83.5/79.4） 2（1）流されてきた土や石を積もらせる水のはたらきを表す言葉を選ぶ（87.9/83.6）	○ろ過の適切な操作方法の習得は、全国よりも、やや下回っている。 4（1）ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ（69.2/71.1）

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問
○より妥当な考えを作り出すために、複数の情報を関係づけながら分析して考察することは、全国よりもできている。 2（4）上流側の雲の様子や雨の降っているところと下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係についていえることを選ぶ。（71.4/59.8） ○より妥当な考えを作り出すために、二つの異なる方法の実験結果を分析することが概ねできている。 4（2）海水と水道水を区別するために、二つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ（87.9/89.4）	○土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある 2（2）流れる水のはたらきによる土地の浸食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ（44.0/55.4） ○より妥当な考えを作り出すために、実験結果を基にして分析して考察し、その内容を記述することに課題がある 2（3）一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く（18.7/20.1） ○乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用することに課題がある。 3（1）風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ（40.7/63.5） ○太陽の一日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用することに課題がある。 3（4）目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の一日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ（37.4/41.9） ○実験結果からいえることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することに課題がある。 4（4）食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く（33.0/35.9）

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(38) 理科の勉強は好きですか。	67.0	83.5	○	16.5
(39) 理科の勉強は大切だと思いますか。	71.5	85.4	○	13.9
(40) 理科の授業はよくわかりますか。	82.5	89.4	◇	6.9
(41) 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。	81.3	87.0	◇	5.7
(42) 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	50.6	64.7	○	14.1
(43) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか。	52.8	72.9	○	20.1
(44) 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。	19.8	26.1	◇	6.3
(45) 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。	46.2	54.5	◇	8.3
(46) 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。	73.6	89.1	○	15.5
(47) 観察や実験を行うことは好きですか。	86.8	89.8		3.0
(48) 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画をたてていますか。	58.3	75.2	○	16.9
(49) 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。	68.2	81.8	○	13.6
(50) 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	55.0	68.1	○	13.1
(51) 今回の理科の問題について、解答や文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	79.1	77.3		1.8
(52) 5年生の時、理科の授業がおもしろいと思いましたか。	79.2	87.5	◇	8.3
(53) 5年生の時、理科の授業を受けた後に、習ったことに関することで、もっと知りたいことがでてきましたか。	68.2	75.1	◇	6.9
(54) 今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか。	72.6	82.0	◇	9.4
(62) 調査問題の解答時間は十分でしたか。	85.6	90.1		4.5

※ (46) (51) 以外は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に答えた割合
○実験や自然観察を行うことは基本的に好きではあるが、それが将来、社会に出た時に役に立つと思う児童は少なく、社会や自然の現象と結びつけた学習活動が必要と考えられる。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本 校 < 本 校 回 答 率 / 全 国 回 答 率 >
家庭生活の様子	・放課後、塾や習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている児童が多い。 ・地域の行事や問題、出来事に関心のある児童が少ない。	○放課後に何をして過ごすことが多いですか。 ・家で勉強や読書をしている。 <47.3/64.1> ・学習塾など学校や家以外の場所で勉強している。 <45.1/32.2> ・習い事をしている。 <61.5/46.5> ・スポーツをしている。 <38.5/47.2> ○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 ・当てはまる <15.4/35.9> ・どちらかといえば当てはまる <17.6/26.8> ・どちらだといえば当てはまらない <33.0/19.2> ・当てはまらない <34.1/18.0>
家庭学習の様子	・学期毎の「チャレンジウィーク」では、1週間を通して学習計画を立てて家庭学習に取り組んでいるが、継続的な習慣として身につけていない。 ・家で予習や復習をするときに、教科書を使用している児童が少ない。 ・家庭で読書をする習慣がついていない児童が多い。	○家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。 ・している <19.8/27.7> ・あまりしていない <36.3/27.3> ○家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。 ・している <28.6/37.5> ・あまりしていない <29.7/20.5> ○学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 ・全くしない <39.6/18.7>
学校での学習の様子	・地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと感じている児童が少ない。 ・課題の解決に向けて、自分で考え、取り組んでいると感じている児童が少ない。	○5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。 ・当てはまる <30.8/40.1> ○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。 ・どちらかといえば、当てはまる <35.2/47.6> ・どちらかといえば、当てはまらない <31.9/19.0>

本校の取組

◎これまでの取組

①学習面

◇朝学習の取組(1時間目開始までの15分間)

国語・算数・外国語(DREAM)

◇学習規律の確立

- ・「聴き方あいいうえお」、「声のものさし」を全教室に掲示し、統一した指導を行う。
- ・教室環境の整備
- ・学習用具の提示

◇指導力の向上

- ・「自ら考え、伝え合う力の育成」を研究主題とし、伝え合うために、まず自分の考えをもたせる。そして、伝え合う手立てを国語科に焦点を当て研究する。さらに検証のための研究授業・研究協議会を全学年で実施。
- ・「泉佐野スタンダード」を意識した授業改善に努める。

◇少人数・習熟度別指導

- ・算数科で、単元に応じて学びの形態を変え、わかりやすい授業を行う。

◇宿題・家庭学習の徹底

家庭学習の習慣化を促す「家庭学習チャレンジウィーク」を毎学期設定し、家庭でも評価してもらう。

◇算数ふり返りテストの実施

- ・つまづきが多くみられた単元を重点的に復習。

◇まなびんぐサポート事業を活用した放課後学習(3年生)

②生活面

◇「あんぜん、あいさつ、あいての気持ち」を生活重点目標とし、あらゆる場面で意識させる。

◎これからの取組

これまでの取組を継続し、さらに以下のことにとりくむ。

①学習面

◇宿題・家庭学習の徹底

- ・家で学校の予習・復習をしているという回答率が低いので、「家庭学習チャレンジウィーク」の取組の見直しや、啓発をしていく。
- ・家庭での読書の習慣をつける。

◇国語科

- ・自分の考えを書くことに課題がみられるので、研究主題である「自分の考え」をもつための手立ての研究を引き続き深める。
- ・要点をつかむ力をつける。物語文や説明文の学習において、キーワードを見つけて要約する活動などを行う。

◇算数科

- ・具体物の操作や量感の育成などの算数的活動を行い、日常生活につなげる。
- ・グラフや表など資料の読み取り方を丁寧に指導する。

◇理科

- ・疑問→仮説→計画→実験・観察→考察→結論という流れを定着させる。特に考察を大切にする。
- ・ビデオや演示実験だけでなく、子どもの手で実験を行うようにする。
- ・復習を適宜行う。

②生活面

◇テレビ・ゲーム・スマホ等の使用に関するモラルの啓発活動を行う。

- ・児童への指導と、講演会や学校だよりを通じた家庭への啓発など。

◇「ボランティア(自発的に他人・社会に奉仕する)」意識の定着をはかる。

- ・「自分ができること」を考え、まわりの人や地域とのつながりを深めていく。